

がみられた。術式別に検査値をみると、外科における大手術である胃全剝術、臍頭十二指腸切除手術で強い障害がみられた。

検査結果を正常群と異常群にわけて術後平均7カ月後の体重変化を比較したところ、異常群により強い体重減少傾向が見られ、また、糞便中排泄率、血中をとりこみ率の両値共異常だった群ではさらに高度の体重減少、すなわち術後の栄養状態の術前レベルまでの回復の遅延をみた。以上より、本検査が消化器術後栄養指導上重要であることを述べた。

14. Unilateral hypoperfusion lung について

山岸 嘉彦 細井 盛一
奥山 厚 井口 俊
西川 博 志田 幸雄
疋田 史典 中沢 広重
(日医大・放)

MAAによる肺血流シンチグラフィにおいて、通常の胸部単純X線写真から推定、想像される通りのシンチグラムが得られることが多いが、想像外の意外な結果を見ることも稀でなく、この点で意義のある検査法の一つといえよう。

今回は片側肺全体のビマン性の activity 低下ないし欠如を呈する所見を取り上げた。

この所見は非特異的であり、シンチグラム上の一つのサインとして多くの人々により種々の呼び名がつけられているが、われわれはこれを unilateral hypo-, non perfusion lung (または unilateral hypo-, non activity lung) と呼び、診断や予後判定に有用であることを強調した。

この原因をすべて取り上げて整理したいいわゆる“Gamut”の観点から評価を加えることは、鑑別診断や医師の教育に非常に役に立つとされており、Holderらのlistを示し、その意義を述べた。

肺癌、気管支異物、Swyer-James 症候群および巨大縦隔腫瘍などにより、本所見を呈した症例を供覧した。

15. ^{99m}Tc Pyrophosphate を用いた心筋イメージ

飯田 峻 内 孝
鈴木慎一郎 新藤 徹
森下 健
(東邦大・1内)

最近、 ^{99m}Tc ピロリン酸が、心筋梗塞急性期に集積する事実とともに、心筋梗塞以外の虚血性心疾患にも、同様に集積することが報告されている。

今回、われわれは正常群、虚血性心疾患群に ^{99m}Tc ピロリン酸を用い、心筋イメージを比較検討した。

方法および対象：被検者は、正常群4例、虚血性心疾患群20例で、 ^{99m}Tc ピロリン酸 15 mCi を静注し、30分、60分、90分後、おのおのの正面、左前斜位、左側面について心筋イメージを検討した。また正常群に ^{99m}Tc ピロリン酸 10 mCi, 20 mCi, 30 mCi を静注し、心筋、骨の RI 集積度を経時的に観察した。

結果：正常群、虚血性心疾患群より得られた心筋イメージを Parkey の分類を参考にし、新たに3段階に分類した。不安定型狭心症に高い集積を認めた。また判定を客観化するために、心筋/骨比を検討した結果、正常者群より虚血性心疾患群に高値を示した。正常群の心筋および骨の RI 集積度の経時変化に検討し ^{99m}Tc ピロリン酸を用いての、心筋イメージの判定には、バックグラウンドおよび RI の半減期の影響を考慮する必要があることを認めた。